



2012年11月8日

各 位

会 社 名 株式会社ツムラ
代表者名 代表取締役社長 加藤 照和
(コード番号 4540 東証第一部)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション室長 磐本 登
TEL 03 - 6361 - 7100

2012—2015 年度 中期経営計画

“KAMPO”で人々の健康に寄与する価値創造企業を目指して

株式会社ツムラ（以下「ツムラ」）は、この度、長期的な経営ビジョン（2021年ビジョン）である「“KAMPO”で人々の健康に寄与する価値創造企業を目指して」に基づいた、4ヵ年（2012—2015年度）の中期経営計画を策定しました。

この新中期経営計画は、2021年ビジョンを実現するための第一期中期経営計画と位置づけ、「価値創造に向けた成長基盤の強化」をテーマとして掲げています。また、具体的な戦略課題として、日本国内における医療用漢方製剤市場の拡大、新生産技術の導入等による「コスト構造改革」の実現、財務・資本政策の遂行による企業価値の拡大の3点をあげています。ツムラは、新中期経営計画を2021年ビジョンの実現に向けたマイルストーンとし、これら戦略課題の追求によって、持続的な成長を図っていきます。

ツムラはこれまで、「漢方」への重点化と集中化を進め、漢方メーカーであることの独自性を最大限に活かし、医療の分野で確固とした地位を築くことを目指してきました。具体的には、漢方医学セミナーや講演会・研究会、医療機関説明会等の積極的な開催を通じて、漢方医学および漢方製剤に関する情報提供の拡充を図っています。さらに、多施設二重盲検群間比較試験による臨床研究とその効果を裏付ける基礎研究が進み、質の高いエビデンスが確立されつつあり、各専門領域での漢方製剤に対する評価は着実に高まっています。その結果、様々な領域疾患において漢方製剤による治療が取り入れられ、医療用漢方製剤の販売数量は堅調に伸長を続けています。

また本年6月末、ツムラは新体制のもと従来の経営方針を踏襲し、さらに進化させることを念頭に置き、新たにスタートいたしました。そして、ツムラグループが追い求めていくべき不変の基本的価値観である「自然と健康を科学する」という経営理念と、社会から必要とされ存在し続ける目的である「漢方医学と西洋医学の融合により世界で類のない最高の医療提供に貢献します」という企業使命を基本的な理念と位置づけ、理念に基づく経営を実践すべく、諸施策に取り組んでまいります。

今後もツムラは、医療用漢方製剤のトップメーカーとして、高齢者人口の増加による医療ニーズや、女性の生涯就労人口の増加による女性疾患の治療ニーズの高まり、さらにプライマリケアの役割が拡大するわが国の医療の将来を見据え、“KAMPO”で人々の健康に寄与する価値創造企業を目指して、全社一丸となり新中期経営計画に取り組んでまいります。

1. 基本的な理念

【経営理念】 自然と健康を科学する

【企業使命】 漢方医学と西洋医学の融合により世界で類のない最高の医療提供に貢献します
基本的な理念である経営理念と企業使命は、ツムラグループ全体で永久的に共有するものであり、これらの理念に基づいた経営を実践してまいります。

2. 長期的な経営ビジョン ～2021年ビジョン～

“KAMPO”で人々の健康に寄与する価値創造企業を目指して

● “漢方”のツムラ

➤ 国内の患者様が、どの医療機関・診療科においても、必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に貢献します。

● “人”のツムラ

➤ 世界に手本のない“漢方”ビジネスにおいて、自らが新しい道を開拓でき、誰からも信頼される“人”の企業集団を目指します。

● “グローバル・ニッチ”の TSUMURA

➤ ツムラグループの持つ技術・ノウハウを最大限活用し、米国における TU-100（大建中湯）の上市、中国における原料生薬の品質向上などの新規ビジネスに挑戦します。

3. 中期経営計画（2012－2015年度）

価値創造に向けた成長基盤の強化

①漢方市場の拡大

日本国内における医療用漢方製剤市場の拡大

②収益力の強化

新生産技術の導入等による「コスト構造改革」の実現

③財務・資本政策

財務・資本政策の遂行による企業価値の拡大

4. 数値目標

	2015年度(2016年3月期)数値目標
売上高	1,230億円
営業利益	295億円
売上高営業利益率	24%
当期純利益	190億円
EPS	269円
ROE	14%

5. 株主還元方針

- ▶ “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じて、企業価値の向上を図る
- ▶ 中長期の利益水準等を勘案し、安定的な配当を実施
- ▶ 機動的な自社株式取得を検討

6. 戦略課題

①漢方市場の拡大 ～日本国内における医療用漢方製剤市場の拡大～

【国内】

「国内の患者様が、どの医療機関・診療科においても、必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に貢献します」という2021年ビジョンに向け、諸施策を展開します。

- ▶ 医師ごとの漢方製剤の使用状況の把握と、使用状況等に応じた各種プロモーション施策の実施
- ▶ 大学病院、臨床研修指定病院、病院、医院における戦略的な処方の拡大
- ▶ 大学医学部、臨床研修指定病院等における漢方医学教育の充実へ向けた支援
- ▶ 各種漢方医学セミナーや講演会・研究会、医療機関説明会等の積極的な開催
- ▶ 漢方製剤の多施設二重盲検群間比較試験による臨床研究とその効果を裏付ける基礎研究の推進、および質の高いエビデンスの確立
- ▶ 各種学会や論文での研究成果の発表に加え、エビデンスに基づくプロモーション活動の実施

【海外】米国におけるTU-100（大建中湯）の開発

- ▶ TU-100（大建中湯）の科学的品質評価法の確立
- ▶ TU-100（大建中湯）のPhase II試験の実施

②収益力の強化 ～新生産技術の導入等による「コスト構造改革」の実現～

漢方製剤の革新的な新生産技術導入や原料生薬の生産効率化等により、「コスト構造改革」を進め、将来の売上原価率低減に資する基盤を構築します。また、更なる販管費率の低減を目指します。

- ▶ 減価償却費等の費用増加分を吸収し得る継続的な原価低減策の検証と実現
- ▶ 省人化・省力化を実現する新製造システムの構築と稼働体制の強化
- ▶ 自社管理圃場*の拡大による原料生薬の生産効率化
- ▶ 原料生薬の栽培化技術開発および実生産化
- ▶ エビデンスに基づくプロモーション活動等による営業効率の向上

※自社管理圃場

当社の直接的な栽培指導ができ、栽培にかかるコストの把握と、それに基づく生薬の購入価格設定が可能な圃場（パートナー企業を通じて管理する圃場を含む）

③財務・資本政策 ～財務・資本政策の遂行による企業価値の拡大～

【財務・資本政策】

医療用漢方製剤の持続的な売上伸長とコスト構造改革等により、収益の拡大を図ります。さらに、原料生薬在庫のコントロール、資金効率の改善、非事業資産（有価証券の一部等）の見直し等により、資産の効率化を図ります。

【人的資本政策】

世界に手本のない“漢方”ビジネスにおいて、自らが新しい道を開拓できるプロフェッショナルな人財を養成します。さらに、生薬の栽培・加工等、“漢方”ビジネスを通じて、障がい者や高齢者の雇用機会の拡大、日本や中国、ラオスにおける生薬栽培農家の雇用機会の創出を図り、ツムラグループ独自の人的ネットワークにおける多様性（ダイバーシティ）の確立を目指します。

【環境資本政策】

漢方製剤の原料は、主に植物由来の生薬です。ツムラは、各国生薬産地の自然環境を大切な「資本」と考えた経営を行い、持続的に生薬が調達できるための栽培研究や環境保全対策等、ツムラ独自の環境資本政策を推し進めていきます。また、生薬残さの再資源化等も進めながら、大地を基点とした「循環の仕組み」づくりに、ツムラグループ全体で取り組んでまいります。

以 上

【見通しに関する注意事項】

- ・本資料中の中期経営計画の目標数値はあくまで目指す方向性等を示すものであり、正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- ・本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なりスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- ・日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- ・現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。